

したのである。

今日、世界の状勢を大觀するに、すべての物の價值は、激しく推移し、轉換し、一切新なる眼を以つて見直すべき必要を生じた。經濟組織、政治機構は、日々夜々、舊き或部分を奪ひ、新しき或部分を加へて、絶へず推移しつゝあるを見る。されば、無產政黨、勞働組合に於ても、その機能を、新なる状勢に適應せしむる爲に、大局を誤らざる見識と、小事も亦怠らざる細心の努力とを必要とするのである。

惟ふに無謀なる舊平價解禁の影響と、世界恐慌との合流は、我國産業を襲ひ、勞働階級は未曾有の苦難に當面した。加ふるに、滿蒙問題の爆發により我日本は世界的孤立に陥り、國際關係は益々惡化の一途を進むのみで、我輸出産業の前途、極めて暗慘たるものがあるのである。この國民經濟の破局的行詰りを打開するの途は、資本主義制度の大改革を行ひ、全面的計畫經濟を樹立する以外に無いのである。この計畫經濟を促進し、その基礎的條件を形づくる事が、今後、我日本勞働組合運動に委任されたる重要任務であると思ふ。

即ち、今後の勞働組合運動は、たゞ單に分配の公正、直接的勞働條件の維持改善を主張するのみでなく、自ら進んで、日本産業そのもの、興隆、産業と國民生活との密接なる關聯、國民經濟と勞働條件向上との融合統一を期して、積極的な努力を行ふ覺悟を要する。

斯る見透しに於て、我日本勞働總同盟の提唱せんとする反共產主義勞働組合全合同、又新にスタートを切らんとする一ヶ年十萬人突破運動も極めて重大なる意義を生ずるのである。

我等をして卒直に言はしむれば、日本最大の悲劇は、資本の攻勢下に於いて、勞働階級が慘憺たる状態に曝されて居ると言ふことよりも、むしろこの立腐れの如き資本産業機構に對して、積極的大改革を加へ、新しき國民經濟組織の樹立に協力し得ざる勞働階級の無力の中に胚胎するのである。

創立第二十年、今日我總同盟は未だ曾て見ざる統一と融合と實力とを以つて、大會を迎ふるのである。今こそ、猛然起つて突撃する絶好の條件が整つたのである。我等と理想と誠意を同ふすものは、勤勞階級、農民、企業家、すべてと提携するであらう。我等の前進を妨害するものは一切之を撃破するであらう。

全組合員諸君、希はくば同志の血涙に彩られたる總同盟旗をして益々光輝あらしめんとを、第二十四大會を迎ふるに當つて特に切望する次第である。

昭和六年十一月